「それいけズッコケ三人組」を読んで

西原小学校　六年一組　賀久登仁

「ひゃあー！ありえねー！」

これが僕の第一声。そしてこの連呼!!　ハチベイ、ハカセ、モーちゃん、この三人が操り出す様々な出来事……というより珍事件の山々。確かにあり得ない話ばかりではあるが、一ページ目からどんどんと話の中に引き込まれ、一気に読み終えることが出来た。

そこには、大きな理由が二つ考えられるのだ。まず、僕と同年代の子供たちが主人公だからでもあり、三人のハチャメチャ振りがなんともおかしいから。

もう一つはこのタイトルにある。実は僕にも仲の良い三人組がいて、そのチーム名は、「三ぼけトリオ」。なんともダサいネーミングである。このメンバーは都会のど真ん中で出会い、幼稚園の頃から一緒になり、今でも家族ぐるみで親しくしているA君とB君である。いつの間にかこのチーム名がついてしまい、最初はこのネーミングを嫌がっていたが、日々の成長と共に愛着がわき、というより慣れ親しんで来たのか、僕達みんながどんどん気に入ってしまっているところが不思議である。

僕はズッコケ組と三ボケ組をリンクして読み進めた。まず、ちょっとおっちょこちょいだけれど、アイディア豊かなハチ

ベイは僕。スローでやや努力家なモーちゃんはB君。知識的だけれどやや理屈っぽいハカセはA君……といったところだろうか。これは、あくまでも僕の独断と偏見に基づく見解であるが、みんなもきっと賛成だろう。

このズッコケと三ボケに共通なのは、何をやるにもハチャメチャであるけれど、正義感が強く何よりも三人の結束力が固いことだ。ズッコケ三人組が最後にクイズにチャレンジするところでは、ハチベイとハカセが裏でずる賢い知恵をしぼり悪戦苦闘するが、結局モーちゃんの実力で最終戦まで残ったという結果が素晴らしい。僕たち三ボケは、三人とも違う小学校に進学したが、「三つ子の魂百まで」とも言われる様に、何かと集まっては、学校の何でもないことをお互いに報告するだけで、大笑いになるのである。

僕はもちろん学校の友達も大切であるけれど、そんな小さな頃からの気心の知れた仲間達と過ごす時間を大切にしている。今回、このズッコケ三人組の本に出会え、強く感じたことは、そんな仲間のありがたさである。また、ふざけるばかりではなく、節度保った行動を心掛け、仲間を大切にする気持ちを改めて学べることが出来た。ズッコケ三人組とできれば出会ってみたいが、まずは、この話を三ボケの仲間とも共有し、物であふれるこの世の中、お金では買うことの出来ないかけがえのない友情の絆を、永遠に深めて生きたいと強く思っている。